

# 西光寺だより

第六十四号 平成二十七年十二月一日発行

## ●今月のことば●

寒い季節になりました。皆様のおかげにより無事に今年も西光寺報恩講法要を終えることが出来ました。ありがとうございました。

今回は『正信偈』の「帰敬頌(ききようじゆ)」とよばれる最初の二句、『帰命無量寿如来』『南無不可思議光』について学びたいと思います。

この二句は親鸞聖人がご自分の信心をお述べになつたものです。

「無量寿、不可思議光の阿弥陀如来に、南無し、帰命いたします」という、親鸞聖人の信心の表明であると同時に、正信偈全体を総括されたお言葉であります。

・無量寿如来・・・はかりなきいのちの如来  
・不可思議光如来・・・思いはかることのできない光明の如来

「私は、無量寿、不可思議光の阿弥陀如来に南無し、帰命して、この正信偈を書きますから、みなさんも、どうか、正信偈をご縁として、阿弥陀如来の本願を信じてください。」という、親鸞聖人のねがいがかもつているのです。

「南無」とは古代インドの言葉です。これを中国の言葉、漢文に訳したのが「帰命」です。いずれも、「阿弥陀如来のおおせにしたがう」という意味で、単なる尊敬の気持ちをあらわすものでも、おたすけくださいというお願いをする言葉でもありません。

「いつでも、どこでも、私と一緒にいてくださる阿弥陀如来に、すべてをおまかせします」という絶対随順の心をあらわしている重要な二句になります。

次回からは全体を把握するために、依経段・依釈段共に現代語訳を通して、進めたいと思いますので、よろしく願います。

## ◆十二月・一月の行事◆

・十二月 三十一日(木)

除夜の鐘

午後十一時五十分より

・一月 一日(金)

元旦会

午前十時〜

正信偈のお勤め

西光寺本堂

## ◆先月の報告◆

①十一月十五日(日)西光寺本堂にて吉川家初参式を執り行いました。ご家族で命の繋がりに感謝し、お勤めをさせていただきました。



②十一月十七日（火）茨木東組門徒総代会研修日帰り旅行を総代さんお二人と共に参加してきました。茨木東組十八カ寺のお寺さん・総代さん二十八名で奈良県立興寺・興福寺を巡る計画で参拝させていただきました。（興福寺拝観は雨で中止、奈良国立博物館見学。）

立興寺は、今から七二〇年あまり前に親鸞聖人面授の門弟「唯円大徳」によって創建されました。唯円大徳は、親鸞聖人没後、聖人のみ教えに間違つた信心がはびこるのを嘆かれて、『歎異抄』という書物を著わされました。『歎異抄』は短い文章であります。聖人の生前に述べられた貴重な言葉を記録し、その信心の真髓をまとめられたものであります。

また本堂裏の少し上がったところにある唯円大徳墓所にもお参りをさせていただき、浄土真宗の歴史の深さにふれる時間を過ごすことが出来ました。

立興寺前住職によるお話を皆さんで聴聞させていただきました。（左写真上）

立興寺左余間に安置されている唯円大徳座像。（左写真下）



③十一月二十三日（月・祝）西光寺本堂にて報恩講法要を厳修致しました。茨木東組の近隣のお寺さんと共に、二時〜奉讃大師作法、七時〜正信偈のお勤めをさせていただきました。昼・夜共に多くのご門徒の皆さまにお越し頂きました。

また昨年に引き続き本願寺派布教使の和氣さんに来て頂き、御絵伝の説明をスライドで詳しくお話しして頂き大変解り易かったというお声を門徒の方々より聞く事が出来ました。

そして、総代さんはじめ役員の方々、前日の準備から後片付けまで大変お世話になりました。仏教婦人会の皆様、ご法中の方々の接待から、おぜんざいの接待まで本当にありがとうございました。



合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>